

令和4年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
成果報告書

団 体 名	有限会社プーク人形劇場	
施 設 名	プーク人形劇場	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業・人材養成事業・普及啓発事業	
内 定 額 (総 額)	10,377	(千円)
	公 演 事 業	2,126 (千円)
	人 材 養 成 事 業	1,064 (千円)
	普 及 啓 発 事 業	7,187 (千円)

(1) 令和4年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	人形劇団プーク 子どもの公演「12の月のたき火」	2022年12月24～28日	演出：岡本和彦／美術：中山杜奔子 ／音楽：長澤勝俊／照明：阿部千賀子 出演：大橋友子、栗原弘昌、野田史 図希、山越美和、亀井祐子、(他)	目標値	1,410
		2023年1月7～9日		プーク人形劇場	実績値

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(2) 令和4年度実施事業一覧【人材養成事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	つくって楽しい、劇あそび！人形劇教室	育成コース・なつ 7/1～3 体験コース・なつ 7/16～18 育成コース・あき 9/30～10/2 体験コース・あき 10/8～10	【講師】小原美紗 【講師助手】叶雄大（玉川大学非常勤講師・法政大学兼任講師） 柏木俊彦（かなつくホールレジデンスアーティスト・調布市せんがわ劇場演劇ディレクター・日本演出者協会副事務局長） 【特別講師】渡辺真知子（人形劇家・ワークショップファシリテーター）	目標値	60名
		プーク人形劇場5階ホール・劇場		実績値	86名
2	保育教材実践講座	2022年5/27 6/10・16・22・30 全5回	荒木文子（紙芝居作家） 和気瑞江（パネルシアター実演家・洗足子ども短期大学非常勤講師・和洋女子大学非常勤講師） 渡辺真知子（人形劇家・ワークショップファシリテーター）	目標値	60名
		プーク人形劇場・5階ホール		実績値	50名
3	演劇と教育 わくわく発見！講座	2022年11/6・12/4・ 1/15・2/5	【講師】西田豊子（劇作・演出家・演劇教育指導者）／渡辺真知子（人形劇家・ワークショップファシリテーター） 【講師助手】戸前優子／山下潤子（人形劇団ひとみ座） 【特別講師】村上理恵（音楽的療法ファシリテーター）／清水美恵（こどもの育ちとあそびの専門家）	目標値	60名
		プーク人形劇場・5階ホール		実績値	51名

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(3) 令和4年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	プーク人形劇場企画 世界の人形劇シリーズ No. 72 「快傑ゾロ」	2022年9月12日 9月7～9日 9月17日 9月21～23日	「快傑ゾロ」 ” POZOR, ZORRO” 演出：トマーシュ・ドヴォジャーク 脚本：ヴィート・ペジナ／美術：イヴァン・ネスヴェダ／音楽：ヴラテイスラフ・スラメック 出演：ペトル・ボロフスキー他（8名） 舞台監督：小立哲也／照明プラン：芦辺靖／制作：伊井治彦	目標値	5580名
		・チェコ大使館大ホール ・タカシマヤタイムズスクエア特設イベント会場 ・大島町総合開発センター ・プーク人形劇場		実績値	※4243名

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価																																																																																
<p>社会的役割等（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。</p>																																																																																
<p>1971年に日本で初めて開設した現代人形劇専門劇場「プーク人形劇場」は、開設当時より劇場の使命を明確にしていました。誕生当時のパンフレットの一文を紹介します。「劇団創立以来42年間にわたる歩み、そのたたかひの中から、プーク人形劇場は生まれた。かつての夢は今ここに現実となる。この劇場は、私たちのものであり、私たちだけのものではない。子どものためと日本のための人形劇芸術の砦としてこの劇場を守り育てることこそ、私たちの仕事！私たちは誓う。人形劇を愛する日本中の、全世界の友人たちの熱い友情と励ましをおぼえながら」</p> <p>家族がそろって楽しめる「子どもの殿堂」として、当劇場は誕生しました。自治体・企業・団体、そして観客一人一人との絆を深め、世界中の人形劇人が集う劇場として、様々な事業を展開し、予定通りに実施しました。</p> <p>ミッションは以下の通りとなります。</p> <p>【①子どものための文化拠点】「人形劇」は小さな子ども達にとって“初めて出会う舞台芸術”になる可能性が非常に高い。人形劇創造の担い手として、常に子どもの発達に寄り添い上質な作品を発信し続ける。</p> <p>【②人形劇のナショナルセンター】国内外の人形劇人との豊富なネットワークを活用し、国際都市にある劇場にふさわしいプログラムを展開。芸術文化を通じて多文化共生社会を目指すことへの理解を促進、地域の活性化を目指す。</p> <p>【③地域の芸術文化拠点】地域からの信頼も厚い劇場として、自治体・企業・市民との協働し、単独の民間劇場ではなしえない魅力あふれる事業を展開。「人形劇のある街」として、地域の魅力を発信する。</p> <p>【④人材育成】人形劇の特性を生かし、大きな人も小さな人も、「共に学び、成長する」機会を創出する。</p>																																																																																
<p>助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p>																																																																																
<p>本年度事業においては、公演1事業、人材3事業、普及啓発1事業を実施し、都内・南関東を中心に5733名の参加がありました。公演事業では、例年クリスマス公演として行っていた作品を、翌年お正月へも公演期間を延長、観客数の拡大につながりました。</p> <p>普及啓発事業では、チェコの最新かつ大型人形劇を、可能な限り大勢の方に鑑賞していただくため、地域企業・自治体との連携を進め、プーク人形劇場の他に、新宿駅直近の特設会場と、伊豆大島においても事業を実施しました。全16回の上演で4243名の参加があり、プーク人形劇場の劇場定員数100名の限界を突破することが出来ました。</p> <p>人材養成事業においても、少人数制の教室を21回実施。事後調査からも、ニーズの高さが表れています。</p> <p>通年の目標として、プーク人形劇場への来場者を年間21000名、コロナ前(2019年)の水準への回復を目指していましたが、そこまでの回復には至りませんでした(達成率91%)。これは、年間通じて、感染防止対策のための定員数削減によるものです。</p> <p>全事業を通じ、国内外のアーティストが交流する劇場として、都市の魅力向上にもつながり、自治体・企業・団体との連携を進めました。(民官26団体)文化芸術による有意義な社会貢献活動となったと捉えています。</p>																																																																																
	<table border="1"> <caption>プーク人形劇場 年間来場者数(全国地方別)</caption> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="2">2019年</th> <th colspan="2">2022</th> </tr> <tr> <th>来場者(名)</th> <th></th> <th>来場者(名)</th> <th>%</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>北海道</td> <td>70</td> <td></td> <td>20</td> <td>0.1%</td> </tr> <tr> <td>東北(北)</td> <td>33</td> <td></td> <td>8</td> <td>0.0%</td> </tr> <tr> <td>東北(南)</td> <td>149</td> <td></td> <td>106</td> <td>0.6%</td> </tr> <tr> <td>北関東</td> <td>690</td> <td></td> <td>112</td> <td>0.6%</td> </tr> <tr> <td>都内</td> <td>11,426</td> <td></td> <td>14,418</td> <td>75.3%</td> </tr> <tr> <td>南関東</td> <td>5,367</td> <td></td> <td>3,757</td> <td>19.6%</td> </tr> <tr> <td>中部(東海)</td> <td>619</td> <td></td> <td>194</td> <td>1.0%</td> </tr> <tr> <td>中部(上信越)</td> <td>274</td> <td></td> <td>124</td> <td>0.6%</td> </tr> <tr> <td>関西</td> <td>304</td> <td></td> <td>125</td> <td>0.7%</td> </tr> <tr> <td>中国</td> <td>132</td> <td></td> <td>21</td> <td>0.1%</td> </tr> <tr> <td>四国</td> <td>106</td> <td></td> <td>13</td> <td>0.1%</td> </tr> <tr> <td>九州・沖縄</td> <td>309</td> <td></td> <td>202</td> <td>1.1%</td> </tr> <tr> <td>不明・その他</td> <td>2,149</td> <td></td> <td>36</td> <td>0.2%</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>21,628</td> <td></td> <td>19,136</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>※1月～12月にて集計。 ※不明・その他には、外国人を含む</p>		2019年		2022		来場者(名)		来場者(名)	%	北海道	70		20	0.1%	東北(北)	33		8	0.0%	東北(南)	149		106	0.6%	北関東	690		112	0.6%	都内	11,426		14,418	75.3%	南関東	5,367		3,757	19.6%	中部(東海)	619		194	1.0%	中部(上信越)	274		124	0.6%	関西	304		125	0.7%	中国	132		21	0.1%	四国	106		13	0.1%	九州・沖縄	309		202	1.1%	不明・その他	2,149		36	0.2%	計	21,628		19,136	
	2019年		2022																																																																													
	来場者(名)		来場者(名)	%																																																																												
北海道	70		20	0.1%																																																																												
東北(北)	33		8	0.0%																																																																												
東北(南)	149		106	0.6%																																																																												
北関東	690		112	0.6%																																																																												
都内	11,426		14,418	75.3%																																																																												
南関東	5,367		3,757	19.6%																																																																												
中部(東海)	619		194	1.0%																																																																												
中部(上信越)	274		124	0.6%																																																																												
関西	304		125	0.7%																																																																												
中国	132		21	0.1%																																																																												
四国	106		13	0.1%																																																																												
九州・沖縄	309		202	1.1%																																																																												
不明・その他	2,149		36	0.2%																																																																												
計	21,628		19,136																																																																													

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

コロナにより減少した子どもたちの芸術鑑賞の機会を取り戻す機運が高まる中、本事業は、国際交流活動を含むこともあり、各方面からの注目度が高く、多角的な広報活動が出来ました。おかげで、観客からの予約も好調となり、全事業を通じ会場は盛況でした。しかし感染防止対策としての定員制限(最前列1列カット)の影響により、当初目標には至らなかった事業があります。

それぞれの目標達成度は下記の通り。

公演事業 目標：1410名／実績：1303名 達成率 92%

※感染防止の観点から、舞台より2mの距離を確保する必要性から、劇場定員数11名の減少により目標未達。

人材養成事業 目標180名／実績：187名 達成率 103%

普及啓発事業 目標5580名／実績：4243名 達成率 76%

※東京都イベント制限により、屋外特設会場の定員数を制限。目標未達。

観客動員目標は未達となった事業もあるが、それぞれ特筆すべき点は以下の通りです。

【公演事業】人形劇団プーク子どもの公演「12の月のたき火」

人形劇団プークの不朽的作品。地域の恒例行事となっています。中にはバスで往復3時間かけて来場することも園(コロナ禍により2年ぶりの来場)もあり、再会できる喜びをかみしめました。若手俳優の登竜門として、入念に稽古を行い、俳優育成の機会としても、次期につながる成果のある公演事業でした。

【人材養成事業】

それぞれに専門性の高い講師陣による講義は、参加者からの満足度が極めて高い取り組みとなりました。

(満足度/満足・大変満足：No.1：育成100%、体験95% No.2：97.7% No.3：100%)

また、参加者からは、来年度も継続してほしいとの声が多く寄せられました。

(No.1：育成100%、体験97% No.2：100%)

また、事業終了後に活用状況調査として追跡調査アンケートを実施。『本講座の体験を自身の活動に活かしたか』の設問に対し、「活用した」との回答が非常に多く、参加者のスキルアップにつながっていることが伺えます。

【普及啓発事業】世界の人形劇シリーズ チェコ・アルファ劇場「快傑ゾロ」

世界無形文化遺産「チェコ人形劇」の中でも最高水準の最新作品。2020年より延期を繰り返し、本年度ついに実現することが出来ました。アルファ劇場にとって初めての「全編日本語」上演を行いました。コロナによる2年間の延期の時間を有効に活用し、チェコ人が発音しやすい日本語台本を監修、日本語指導を行うことでの実現でした。海外作品を鑑賞する際の最大の障害となる「字幕」読むストレスを軽減、字の読めない小さな子どもを持つ家族も、安心して来場していただいた。プーク人形劇場だけの公演では、1公演80名しか入場して頂けない限界がある中、3会場でも事業展開することにより、16回の上演で、4250名の方に来場していただきました。(チェコ・アルファ劇場「快傑ゾロ」は、国内巡回公演も併せて敢行(ネットワーク強化事業)、国内16会場35回公演を行い、ほぼすべての会場を満席で迎えることが出来ました。)

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

予定していた計画通りに全事業を実施しました。

【公演事業】人形劇団プーク 子どもの劇場「12の月のたき火」は、クリスマス公演とお正月公演として、ご家族そろって観劇できる日程に設定しました。劇場定員(100名)に対し、感染防止対策のため最前列カットによる定員(90名)はほぼ満席となり、当初目標の92%の達成率となりました。

【人材養成事業】講師のスケジュールにより、若干の日程変更はありましたが、ほぼ当初予定通りに事業を実施しました。保育・幼稚園の研修として参加したいとの、幼児教育の現場からの要望に応じて、会期を平日にも設定し、定員まで予約が入りました。適切な事業計画だったと評価しています、

【普及啓発事業】予定通りに開催しました。これまで夏休み期間中に開催していましたが、酷暑を避けるためと、夏場は新型コロナの感染傾向が拡大期となる事が想定されていたため、初めて9月へと移行して実施しました。各関係団体・企業と緊密に協議を重ねたことで、スムーズに移行することが出来、広報活動の強化にもつながりました。事前予約は発表後まもなく札止めとなりました。東京都のイベント規制により、屋外会場での定員制限をせざるを得ませんでした。百貨店と劇場、それぞれの業種の感染防止対策の知見を集約し、万全な感染防止対策を講じての開催となったことが。観客にも安心感を与えた効果だったと総括しています。

三事業とも、計画通りに実施し、早い段階から広報活動にも注力することで、事業内容を充実させて臨むことが出来ました。適切な事業期間であったと評価しています。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

2020年より続くコロナ禍により、多くの公演活動が中止や延期となる中、安心安全に事業を展開するかに注力して臨みました。要望書を作成する以前から、各方面との協議を重ね、コロナ禍での2年間で学んだ知識を集約し、可能な限りあらゆることを想定して臨みました。感染防止対策費は予算的に大きな負担ではありましたが、計画段階から準備を重ねることで、適切に予算を確保することが出来ました。

公演事業：要望時予算の98%にて執行。

人材育成：要望時予算の90%にて執行。

普及啓発：要望時予算の89%にて執行。

コロナ感染対策は、別事業からも捻出することが出来たこと。また、感染防止対策も含め、出演者・スタッフの高い意識により、経費を抑え効率的な事業実施につながりました。

特に普及啓発事業は、7月に東京都からも助成が内定し、本事業以外のアーティスト・実演家も参加する事業へと発展し、企画性と波及効果が高めることが出来ました。結果として、当該事業の経費軽減にもつながりました。

三事業とも、計画通りに事業を実施したこと、早い段階からの準備を重ねることで、予算的にも効率的な事業展開が出来たと考えています。

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

プーク人形劇場は、1971年の開設以来、伝統から最新作まで、国内外の選りすぐりの人形劇作品公演を続けてきました。新宿・渋谷地域は、大ホールから小ホール・ライブハウス迄様々な劇場が点在し、劇場文化が発展したエリアですが、小さな子どもたちからお年寄りまで、家族がそろって観劇できる公演を、年間通じて行う劇場は数が少ないという事情があります。プーク人形劇場が「子どもの殿堂」として、企画性と共にその機能を発揮いさせることが求められていることを実感しています。

劇場建設に向けては、都議会、国会の超党派の議員や、東京都知事をはじめ首長からの支持、子どもたちからのカンパも頂き、文字通り全国からの支援が集まることで、開設にたどり着きました。支援の輪は海外にも広がり、現在の「世界の人形劇シリーズ」へと引き継がれています。

近隣エリアからも、「オンリーワンのプーク人形劇場があることが、この地域の一番の特色」との声を頂きます。てきました。官民様々な団体・機関・個人・内外の実演家、たくさんの方々から支援の当劇場は支えられてきました。このような関係者とのネットワークこそが、当劇場の財産であり、その負託にこたえていくことが当劇場の使命と実感しています。

このようなたくさんの方々を支えられて、本年度も様々な事業を展開し、本事業では公演・人材育成・普及啓発の3事業を実施、それぞれ連携させることで、効果的な展開となりました。

【公演事業】

当劇場恒例のクリスマス公演「12の月のたき火」は、「出遣いマリオネット」と呼ばれる手法の先駆けとなった作品。日本人形劇の発達史から見ても記念碑的な作品で、人形劇団プークの代表作の一つです。今回お正月公演としても期間を延長して臨み、2018年以来、最も多い観客数を達成しました。

また、ロングランを続ける作品が、紋切り型に陥ることが無いように、「若手俳優の登竜門」と位置づけ、最も力のある演出家の指導の基、俳優養成に注力して臨んでいます。観客アンケートからも90%に迫る満足度を頂き、今後の全国巡回公演への弾みとなり、優れた創造性を発揮できたと考えています。

【人材養成】

都内における子どものための文化施設の減少を受け、当劇場の社会的役割は重要になっていると感じています。当事業では、子どもを支えるファシリテーターの育成・考察を行い、実践の場として子ども対象のコースを設定。予約開始と同時に、定員に達し、年々参加者が増えています。参加者の満足度も高く、極めて高いニーズを実感しています。

【普及啓発】

プーク人形劇場の財産である海外劇団との緊密な関係の下、チェコピルゼン市立アルファ劇場と共に、プーク人形劇場の他に都内3カ所で事業を実施しました。(他に国内ツアー公演 12会場 19回公演あり)都内会場では、新宿駅直近の屋外会場、大使館大ホールの他、伊豆大島でも公演を行いました。

民官含めた各関係機関・団体との緊密な連携が必須な取り組みであり、地域からの信頼を頂いていることが、何より力となりました。チェコアルファ劇場初の「日本語公演」も含め、当劇場の演出・脚色・舞台技術、制作・企画製作力をフル活用することで初めて実現できた取組だったと、自己評価しています。

三事業ともに、劇場としての機能と財産を最大限発揮しての取り組みであったと、自己評価しています。

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

東京都内の子どものための文化施設が減少する中、子どもたちが家族そろって安心して楽しめる公演やワークショップを年間通じて開催する劇場として、プーク人形劇場の果たすべき役割は大きいことを実感しています。

そのため、新宿駅直近のイベント会場での開催など、民間小劇場単独ではなしえない事業展開を、地域の様々な団体と協働することで実現することが出来ました。独自性のある企画は、劇場間ネットワーク拡大にもつながっています。人形劇という特殊なジャンルを通じ、文化芸術ならではの地域振興へ効果的な取り組みを行うことが出来たのではないかと、関係各団体とも総括しています。

【公演事業】

人形劇団プークの不朽的名作「12の月のたき火」公演は、毎回ほぼ満席となりますが、出演者が多いことと、出遣いマリオネットの修練には、多くの稽古日数が必要になり、単一の芸術団体や劇場では収益を上げることが難しい公演です。しかし、当劇場では本公演を「若手俳優の登竜門」と位置付け、出遣いマリオネットという特殊な技術を次世代へと継承する大切な公演です。今回、クリスマス公演とお正月公演へと時期を拡大し、家族で楽しめる地域の恒例行事として、地域町会・商店会と共に広報宣伝の強化を図り収益力の向上を目指しました。

高齢化する町会と、この地に移り住んできた比較的若い世代と、町会との繋がりを創るイベントとして、広報宣伝にも注力しています。地域と共に、観劇への機運醸成を進めていくためには、作品の芸術性の高さが不可欠です。舞台芸術を通じて、地域が一体にねって子どもたちを育てていく環境づくり、「子どもの殿堂」としての役割を、今後も務めていきたいと考えています。

【人材養成】

「子どものための文化施設」として、子どものための舞台芸術活動の担い手（実演家・ファシリテーター・サポーター）の育成を目指す本事業は、参加者の増加に伴い実施回数を拡大して臨んでいます。即実践につながる講座として、ニーズの高さを実感している。都内において、人形劇に通じたファシリテーターの育成事業を行う劇場は、他に例がなく、アーティストによる社会貢献として今後ますます注力していきたい。

【普及啓発】

今では世界無形文化財として、ユネスコの世界無形文化遺産に認定されているチェコの人形劇は、伝統的に屋外で演じられてきた歴史があります。本作品は、2020年チェコ共和国文化省演劇部門大賞受賞した演出家トマーシュ・ドヴォジャーク氏による最新作品であり、高い芸術性が担保されています。

本事業では、チェコの人形劇の特性を最大限発揮し、世界の宝ともいべき作品を、より広範な方々へ堪能していただく挑戦的な取り組みでした。その実現のため、新宿・渋谷エリアの官民18団体からの協力・後援を頂き、当事業の他に、チェコ文化省・ピルゼン市からの助成を頂きました。アルファ劇場の尽力にも感謝の念が堪えません。

新宿と大島では、人形劇以外にも、伝統芸能（御神火太鼓）やシニア劇団、ボディー・ペイントと舞踏のパフォーマンスを加え、複数プログラムの上演を行いました。企業（新宿高島屋）・自治体（新宿区・大島町）との協働により、実現したプログラムは、「普段の場所を劇場へ」を合言葉に、関係化する各団体が、新に協力者を獲得していく作業の繰り返しでした。コロナ禍の三年の間、あきらめることなく、実現に向けて尽力していただき、実現することが出来ました。関係各団体との総括では、文化芸術事業を通じた地域振興に値する事業展開となったと、それぞれの立ち位置から発言がありました。

今後さらなる事業展開を目指し、文化芸術によって潤いと彩のある街「人形劇のある街」を目指していきたいと考えている。

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

公演・人材・普及啓発 それぞれが単独の事業でありながらも、相互の事業には関係性があり、継続的に取り組むことで、組織の強化につながっています。その成果が組織体系としても目に見える形で現れてきました。

（左表「雇用者数の推移」参照）

ベテラン人材から若手・現役世代への移行が進んでいることが伺えます。この背景には、魅力あふれる事業を絶え間なく実施し、事業の好循環があります。

活動内容にふさわしい組織体制へ変化（発展）していることが伺えます。

歴史ある劇場活動の継承を進めるための、ベテランの活動継続と、若手の起用が功を奏しているのではないかと、分析しています。

雇用者数の推移

2023年4月1日時点

	20代	30代	40代	50代	60代	70代	合計	新規雇用	離職
2014年	0	1	1	0	4	0	6	-	
2018年	1	1	2	0	3	1	8	1	
2019年	1	2	3	0	3	1	10	2	
2020年	1	3	2	0	2	2	10	1	
2021年	2	3	1	1	2	2	11	1	
2022年	3	3	1	1	2	2	12	1	
2023年	0	5	2	1	2	2	12	1	1

当劇場では、年4回の総会（劇団員会議）を開き、すべての事業を点検し、次年度の計画を討議決定しています。事業・制作担当者は、観客・鑑賞団体をはじめ、各関係団体からの声（感想・まとめ・要望）を含めて集約し、作品の芸術性、収支状況を取りまとめ、それぞれの常任委員、役員会にて討議検証し、総会に臨みます。このような点検・討議・意見の集中を行った後に次年度の計画へ反映させていきます。

【公演事業】 プーク人形劇場の公演作品は、次年度の全国への巡回公演とつながります。本事業において、公演活動の芸術性を向上させていくことは、巡回公演の拡大に直結します。巡回公演は、当劇場発信の作品を全国各地に普及させていくことで、作品創造・稽古のコストの回収につながり、持続的な作品創造を支える土台となっています。ベテランスタッフ・俳優と若手人材が互いに学びあう関係を大切に、次世代継承を進めています。

質の高いプログラムと事業の拡大が求められています。

【人材養成】 人形劇の特性を活用してのファシリテーターの育成事業へのニーズの高さは、前述した通りですが、本事業の実施により、当劇場スタッフのワークショップ派遣や、これまで人形を出演させてこなかった、他団体の作品へのスタッフ参加へ結びついている。新しい芸術団体・劇場とのネットワーク形成につながり、劇場職員の経歴とモチベーションのアップにつながっています。人形劇以外の多様なジャンルの実演家との繋がりがづくりとして、持続的に発展させていきたい。

【普及啓発】 当劇場のこれまでの国際交流活動と国内外巡回公演の経験と実績をフルに活用する事業となっています。2014年に新しいスタッフへ引継ぎ10年が経過、若手スタッフとのチームを結成し、事業は大幅に拡大をしてきました。人形劇を通じた国際交流を進める随一の劇場と自負しています。世界で活躍できるチームへと成長することが期待されています。

全事業を切れ目なく実施していくことで、組織の発展に成果が表れ始めていますが、一部職員への負担の集中も顕著になっています。組織内の任務分担だけでは解決できない問題もあり、引き続き人材の獲得に努めていく必要があります。また、給与・待遇面では未だ一般的な水準には及ばず、個人の熱意と情熱で補うことも少なくありません。魅力的な事業展開によって、構成員のモチベーションは高く保たれていますが、継続的な発展を続けるためには、民間劇場としてのアートマネジメントの強化が求められています。